

2014年度第5回執行理事会議事録

期 日：2014年10月11日（土）13:00～17:00

場 所：地質学会事務局

出席者：井龍会長 齋藤常務理事 海野 緒方 坂口
杉田 中澤 平田 星 保柳 松田 山路
(事務局) 橋辺

欠席者(委任状)：山本副会長 渡部副会長(齋藤) ウ
ォリス(井龍) 竹内 廣木(井龍)

*定足数(12, 委任状含む)に対し, 出席者12名,
委任状 5名, 合計17名の出席.

*前回議事録を承認した.

I 審議事項

1. 「巡検実施申し合わせ」の改定
一部文言を修正の上, 改定案を承認した.
2. HPの専門部会ページの英文化(各部会長に依頼)
と英文の添削および費用負担について(松田)
5万円程度の費用負担を認める.
3. JpGUのキャリア支援委員会委員の交代について
佐々木和彦理事が委員を辞退したことによる後任
委員は, 杉田理事に交代することにした.
4. 台湾地質学会との学術交流協定締結およびモンゴ
ル地質学会との交流協定更新について(ウォリス・
保柳・井龍)
・モンゴル地質学会との協定は5年の期限(10/14)が
きたので更新することにした.
・各国との協議を担当する会員(国際交流担当委員)
を決める.
年会で半日程度のシンポを開催する方向で検討す
る. 交流成果を学術出版物にして残すことが提案さ
れた.
5. 地層名等の層序単元の登録に係る学会側の体制に
ついて(中澤)
6. 県の石の選考方法について
・支部長, 関係部会, 理事からなる選考委員会を構成
する.
・次回理事会までに担当理事を決定する. 委員以外の
アドバイザーの設置も考える.
・関係部会は, 地域地質, 層序, 岩石, 火山, 古生物,
鉱物資源とする.
7. 会員数の増加に向けて: 小宮理事提案(井龍)
小宮理事からさまざまな面からの提案があったこ
とが紹介され, 次回に検討することとした.
8. 部会活動の活性化(井龍)
9. 論文著者の貢献の明記について(継続審議) →地
質雑とIARの編集委員会に検討を依頼した.
10. 機関リポジトリについて(継続審議) →地質雑と
IARの編集委員会に検討を依頼した.
11. その他
1) ニュース誌, ジオフラッシュ, ジオルジュ等の編

集長をそれぞれ新たに決めたい(委員会の再構築)
という広報委員会からの要望があった. その方針を
執行理事会として承認した.

- 2) フォトコンに関して, 新たなカテゴリ(ジオフォ
ト)を設けたいという意見があった. 広報主導で具
体的に検討することにした.

II 報告事項

1. 全体的報告(メール審議確認)

- ・鹿児島大会のポスター賞について(中澤)
合計9件のポスターを選定した.
- ・地学オリンピックについて久田理事にオブザーバー
出席していただき, 地学オリンピック日本委員会の
事業別収支, 2016三重大大会準備状況, 特に協賛金等
について説明していただいた.
- ・報告「大学教育の分野別質保証のための教育課程編
成用の参照基準地球惑星科学分野」(学術会議地球惑
星科学委員会地球惑星科学大学教育問題分科会: 委
員長西山忠男氏)が公表されたことが小嶋委員より
報告された. とりあえず理事会MLに送信した. 会員
への周知をgeo-flashやNews誌, HP等で行うことと,
その場合の前文は西山委員長にお願いすることとし
た.

2. 運営財政部会: 総務委員会(緒方)

<共催・後援依頼, 他団体の募集等>

- ・第13回微量元素の生物地球化学に関する国際会議(組
織委員長 金沢晋二郎)(2015/7/12-16, 福岡)へ
の後援依頼を承諾した.
 - ・清川理事(プロジェクトA代表)より下記のシンポジ
ウム(2015/3/5-8, 大韓民国太田韓国地質資源研
究院, 主催: Project A, KIGAM)についての後援依
頼があり承諾した.
3rd International Geoscience Symposium-Project A
in Korea-Observation oceanicbiogenic-geological
records from modernto early Earth History
 - ・北淡国際活断層シンポジウム2015(実行委員長 中
田節也, 2015/1/13/16, 北淡町)の後援依頼があり
承諾した.
 - ・国際第四紀学連合(INQUA)2015(共催)の参加登録・
発表募集開始案内と会員への周知依頼が組織委員会
よりあった. →geo-flash, News誌に掲載
 - ・山田科学振興財団より2015年度研究援助候補者の推
薦依頼(援助対象2015/9-2017/03までの研究): 地質
学会からは3件まで推薦可(募集期間10/1-2/27,
学会メット1/31) →HP, geo-flash, News誌に掲載
- <その他>
- ・地学団体研究会より, 同会の今次の総会において「福
島第一原発の汚染水問題に対する科学的対応による
解決を求める」, 「高レベル放射性廃棄物処分に関す

る開かれた議論とすべての原子力発電所の廃炉を求める」,「学校教育法, 国立大学法人法改正に抗議する」の3件の声明を出したとの広報があった。

- ・茨城大学教員公募, 教授または准教授 1 名 → geo-flash, News誌に掲載

<会員>

1. 今月の入会者 (2名) 正会員 (2名): 今泉和俊・矢部英生
2. 今月の退会者 正会員 (1名): 箕浦幸治
3. 今月の逝去者 (名誉会員 1名): 首藤次男 (10/6)
4. 2014年9月末日会員数
賛助: 27, 名誉: 65, 正会員: 3825, (正会員: 3639, 院割会員: 171, 学部割会員: 15) 合計3917 (昨年比-74)

<会計>

- ・鹿児島大会収支概要 (支出超過), 鹿児島市からの補助金は10万円の予定であることが報告された。

3. 広報部会: 広報委員会 (坂口・松田)

- ・ジオルジュ後期号は11月10日発行予定で現在校正中との進捗状況が報告された。

4. 学術研究部会 (ウォリス・竹内・中澤)

- (1) 行事委員会 (竹内)

- ・鹿児島大会および長野大会について年会の全体日程 (表彰式・記念講演会を含む) に関する議論は, 長野大会LOCにも検討してもらって次回の執行理事会で議論することとした。

- (2) 国際交流委員会 (ウォリス)

- ・鹿児島大会の学術交流報告ほか
- ・日台技術協力研修に対する協力の礼状が, 日本国際協力センターより届いた。

- (3) JIS, 標準担当 (中澤)

5. 編集出版部会 (山路・海野・保柳)

- (1) 地質学雑誌編集委員会 (山路)

- 1) 編集状況報告 (10月8日現在)。

2014年投稿論文 総数59編 [総説4 (和文4)・論説31 (和文31)・ノート1 (和文1)・報告8 (和文7・英文1)・口絵7 (和文5・英文2)・巡検案内9] 査読中 23編 受理済み4編 (うち特集号3, 通常原稿1)

- 2) 特集「地層処分と地質科学」(世話人吉田英一ほか) の掲載原稿不足解消のため, 2回に分割掲載することとし, 「(その1)地質環境とバリア機能」(総説2, 論説1, 口絵1: 計約50頁) を10月号へ掲載する。現在校正中。

- 3) J-STAGE Lite (仮称) サービス開発方針に関する説明会 (10/6開催)

JSTが新たに提供するサービスとして, 現在J-STAGE上で公開されている査読済み論文誌以外にも多様な逐次刊行物を公開, 流通させるために, 発行機関自らがより簡便にコンテンツを公開できるシステムを開発する。運用開始予定は, 2015年10月頃。新システ

ムでは現在JSTAGE上で公開している地質学雑誌, 講演要旨集以外の発行物 (例: 研究報告書, 議事録など) も新たに公開することが可能になるとのこと。

- (2) アイランドアーク編集委員会 (海野)

- ・編集状況報告

- (3) 企画出版委員会 (保柳)

- ・現状企画が滞っている地質用語辞典について, 関係の横田会員, 村田会員と鹿児島において話し合った結果, 現状での出版意義の低下等にも鑑み, 残念ながら本企画を中止することとした報告があり, 執行理事会としてこれを了承し, 本企画の中心となっていた水野会員にこの旨を伝えることとした。

6. 社会貢献部会 (平田・杉田・廣木)

- ・秋季地質調査研修は, 6名の参加を得て開催が決定した。

7. ジオパーク支援委員会 (天野・平田)

- ・第8回国際地学オリンピック スペイン大会の報告

8. 支部長連絡会議 (渡部)

- ・9月13日, 鹿児島において開催した。県の石, 災害への対応などについて話し合った。

9. 地質災害委員会 (斎藤)

広島土砂災害, 御嶽噴火について対応。緊急展示ポスターの内容をニュース誌, HP等に掲載できないか検討する。

以上

2014年11月8日

一般社団法人日本地質学会執行理事会
会長 (代表理事) 井龍康文
署名人 執行理事 斎藤 眞